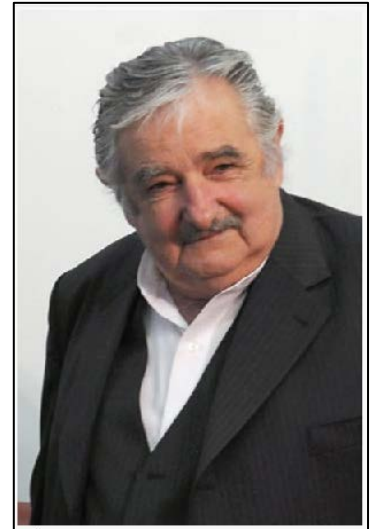


「幸せ」に生きる為に

1. 「世界一貧しい大統領」

右掲は、「世界一貧しい大統領」と呼ばれているウルグアイのムヒカ元大統領です。4月に来日されたニュースがあり、私は、初めて知りました。ネットで調べると昨年、退任するまで

- ・ムヒカ大統領は現在、大統領公邸には住まず、首都モンテビデオ郊外の質素な農場に妻と住み、菊を栽培。
- ・彼はその資産の80%を寄付し、個人資産は約18万円相当の1987年型フォルクスワーゲン・ビートルのみで、郊外の質素な住宅に暮らしている。
- ・大統領の月収は日本円で約97万円、同国の平均月収は約6万円。ムヒカ氏が、いかに豊かか容易に理解できるはずですが。しかし彼は、その殆どを寄付し、同国の平均年収しか手元の残さないそうです。
- ・ウルグアイのホセ・ムヒカ大統領は、国民も認める世界最貧の大統領だが、そのムヒカ大統領が、過去5年間に慈善事業に自己資金55万ドルを投じていたことを明らかにした。
- ・理由は、自分が得たお金を貧しい人と企業家のために役立ててもらいたいから。彼が国民から支持を受けるのも願います。



等と紹介されています。最後にある「理由」は日本の政治家に耳が痛いものです。また、政治家ばかりでなく、経営者やごく一般の人にも耳が痛い部分があります。

2. ムヒカ元大統領語録

- ・貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ
- ・発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。
- ・私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命よりも高価なものは存在しません。
- ・人は物を買う時は、お金で買っていません。そのお金を貯めるための人生の裂いた時間で買っているのですよ
- ・もっと良い世の中の目指すということは中古車を集め、乗客率を倍にするということではありません
- ・人間はもっと良い暮らしを持つためにものが必要なのですが、それを達成するために消費と仕事をどんどん増やさなければ行けない計画的陳腐化や底を知らない消費主義社会にイエスと言っははいけません
- ・若い人には恋する時間が必要。子どもが生まれれば、子どもと過ごす時間が必要。働いてできることは、請求書の金額を払うことだけ。職場と家の往復をするだけに時間を使っていると、いつの間にか老人になってしまうよ。
- ・お金があまりに好きな人たちには、政治の世界から出て行ってもらう必要があるのです。彼らは政治の世界では危険です。

・お金が大好きな人は、ビジネスや商売のために身を捧げ、富を増やそうとするものです。しかし政治とは、すべての人の幸福を求める闘いなのです

3. 「幸せ」という事

ムヒカ元大統領の言葉を読むと「今頃、こんな人がいたんや！」と思いました。国民の平均年収と同じ程度しか残さずに余った所得を寄付しているとの事です。また、大統領専用機も持たずに民間航空機に乗り、時には、他国の大統領の飛行機に便乗したそうです。まさに、権力とは無縁の方だったようです。

私の耳に痛いのは、「職場と家の往復をするだけに時間を使っていると、いつの間にか老人になってしまうよ。」という言葉です。また、その前にある「若い人には恋する時間が必要。子どもが生まれれば、子どもと過ごす時間が必要。働いてできることは、請求書の金額を払うことだけ。」という事はズシッと心に刺さります。3人の子供に恵まれたが、彼らが幸せだったかと思うと本当に請求書の支払だけだったと後悔しています。亡くなった妻には、もう、どうしようもないのですが、せめて3人の子供や孫たちと幸せに過ごす時間を多くしたいと思います。

しかし、現実的には「幸せ」という事で見れば、他にもいろんな角度があるのが現実です。仕事を通じて他人の役にたつという喜びも大きな幸せです。私は、システム開発関係の仕事が長かったので、徹夜でソフト開発した事がありました。殆ど、寝る為に家に帰る状況で亡き妻は「未亡人みたい」と呟いていましたが、難しいソフトを開発して人の役に立つという喜びがあったのです。当然、妻や子にさく時間が少なかったのは事実として残っています。されど、この喜びがあったからこそ、それなりの収入があったとも言えます。この家族にさく時間と仕事の時間のバランスが問題なのです。私は、難しいソフト開発に没頭していたので、仕事の方が大きかったです。これは、悔いを残すというものではなかったと思っています。そういう人の役に立つという幸せを追い続けて経営コンサルタントの仕事に「道」を拓いたのも事実です。

4. 負け犬にはなるな

若い人たちに何かを伝えるとしたら、ムヒカ元大統領のような境地になる前に、一生懸命になって自分の道を切り拓けと言いたいのです。若いうちは経験も不足しているので、「苦勞を買ってでもトライせよ」と教えられたものです。「こんな言葉は昭和や」という前に、今の繁栄も長くはないと言いたいのです。男まで育休をとる時代になりましたが、そんな豊かな日本は夢幻のことなのだと言いたいのだ。

資源小国の日本が物質的に恵まれているのは、戦後、アメリカの支援もあって、その中で、昭和を企業戦士とまで言われて歯を食い縛って働き続けた先輩たちの血と汗の結晶なのだと言いたい。そのアメリカも頼りにならない時代になり、中国と言うならず者国家が海洋資源まで独り占めにしようとしている背景を考えると寿司屋でトロやマグロと飽食している場合ではなくなるのだと敢えて警告を発したい。

ムヒカ氏の生き方は素晴らしいものがありますが、彼には農場というかけがえのない資産があるのです。毎年、天の實りを頂ける彼なのだ。彼のような生き方には、そういう安定した資産がないと現実的に不可能なのだ。甘い夢を見るととんでもない事になってしまうのです。「負け犬」という言葉がありますが、ベースの収入を約束する資産がないならば、それを作ってからの話と思うのです。お客様でも職位でも資産でも、それなりの物をもってからの話と思うのです。それまでは、必死になって働くことが優先すると警告したいと思います。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> あります！】